

2025・26 年度

第 3 回・ラーニング委員会・議事録

開催日時 2025・8・21・木曜日 18 時～ 開催場所・白鳥会員宅

出席○遅刻△欠席×

委員長 福原 義一(○)副委員長 篠田 美幸(○)

委 員 三木 敏靖(×)白鳥 政孝(○) 赤星 健二(○) 万崎 英正(×)

宮坂 大雄(×)小泉 秀俊(×) 石橋 孝 (×) 山崎 克哉(×)

山本 正樹(×)高木 祐司(×) 石川 晋平(×) 夏井宏一郎(×)

佐藤 浩之(×)

オブザーバー

会長 宮武 淳(○)幹事 檜垣 昌宏(○)

委員長挨拶

今日はポールハリスの生い立ちを、白鳥会員に講師として1時間以内でお願いいたします、終了後は久遠での懇親会です、どうぞよろしくお願いいたします。

議題

1 白鳥パストガバナー会員より

ロータリーの歴史を辿る・ポールハリスの生い立ち

別紙

次回委員会開催日 未定

ロータリー史の概略 (1)

1. 【ロータリーの発生史】

ロータリーは思想である

- ・ロータリーは一般的には奉仕団体と考える人が多い。本来は出入り自由な社交クラブである。
- ・今日の発展は優秀な会員による「ロータリーの哲学」の探求が常に行われている。これがロータリーの特徴である
- ・ロータリーは単なる社交クラブでない。「ロータリー哲学」を根底におくクラブである。
- ・すべての活動はその思想なり理念なりが常に磨かれていなければならない。
- ・クラブの会員はこの哲学の知的探求を義務づけられてはいないが、この哲学を受け入れられない会員はクラブから立ち去るしかないでしょう。
- ・その哲学は「知行合一」は実践されなければならない。
- ・ロータリーはひとつの信仰である。週一度の洗礼を受ける意味の例会出席が必要である。
- ・価値判断とは信念の問題であるからロータリーに身を置いたとき、ロータリーで学んだ価値判断が自ずと出てくる。
- ・ロータリーというのは20世紀の人類文化史上初めてできた、職業人の社交エネルギーをもって世のため、人のために使うというものです。
- ・1905年ポール・ハリスによってはじめられたロータリーは、たいした原理・原則などない。ましてや奉仕などもない。1907年に始めて親睦のエネルギーを世のため、人のために使おうとなった。
- ・人生哲学とか奉仕哲学など諸説乱れ、感情的になり1923年に試行錯誤に終止符が打たれた。
- ・決議23-34をもってロータリーの奉仕哲学を打ち立てることができた。
- ・どんななプログラムでも、実践においては、あくまでも「ロータリーの哲学」を基本におかねばならない。実践とはあくまでも原理を踏まえた行動でなければならない。
「理念なき行動は兇器である。行動なき理念は空である」本田宗一郎
- ・ロータリーの神髄は個人奉仕ですが、原理を踏まえた一人ひとりのロータリアンがモザイクのよう
に人類史上に塗り重ねていく作業がロータリー運動です。 ハロルド・トーマス「ロータリー
モザイク」

2. 【ポール・ハリスの生い立ち】

- ・ 1868年南北戦争の直後 ウィンコン州レイシンにて誕生 父ジョージ、母コーネリア・ブライアン 父は雑貨屋だが発明と分筆業に熱牛し、母は浪費癖にある人で倒産し、家族四散しハリスは兄セシルとともにウオリングフオードの祖父ハワードのところに引き取られる。
- ・ ハワードはジョージのために雑貨屋を買ってあげたが、ここで両親の癖は治らずまた破産する。
- ・ 祖父ハワードと祖母のパメラの厳格な躾のと、愛情の下で育ち、アイオワ州立大学法学部に入学するまで、祖父母は常にポールの良き理解者であった。 WASP
- ・ ロータリー運動は、一切の虚飾を離れ、日々を勤勉に過ごす。
- ・ 伯母の夫、医師のジョージ・フォックスの世話好きと献身的な生活態度に感銘を受けた。
- ・ 幼年学校を卒業しバーモント大学に入学したが他人の悪行の責めを負って退学した。
- ・ 名門プリンストン入学するが祖父の死によって退学し、大理石会社に就職、一年後伯母に勧められアイオワ大学に入学、弁護士の資格を取得、エジンバラのカムリーバンクス出身のジーンメアリーと結婚 カムリーバンクス（シカゴ郊外）82歳 74歳の時RI 創立50周年記念国際大会に招待される。エジンバラに帰る。財産全部R財団に寄付。

3. 【五カ年の愚行】

- ・ 大学卒業後すぐ弁護士を開業せず先輩の薦めで人生経験を深めるため諸国漫遊の旅に出る。
1891年～1896年 放浪後1896年 喧騒と活気に満ちていたシカゴにて開業
- ・ サンフランシスコ 新聞通信員
- ・ 南カルフォルニアのレーズン箱詰め工場で働き、ロサンゼルス商科大学の講師を9ヶ月務める
- ・ アメリカ中部のコロラド州デンバー俳優となる。地方新聞の記者、カウボーイ、記者となり、その後ジャクソンビルに移りホテルの事務員、大理石会社の外勤営業部員となる。ワシントンに行き「ザ・ワシントン」の新聞記者となる。
大理石会社の外勤営業員としてケンタッキー、テネシー、ジョージア、バージニアを駆け回る。
- ・ イギリスにわたるため家畜運搬船の氷夫としてボルチモアからリバプールにわたる。過酷、
- ・ 再度イギリスに渡るため缶詰工場で働き、貨物船に乗りロンドンに行く、ロンドン、ウエールズ見物後、アメリカに帰り、1893年シカゴ世界博覧会に訪れる。米山梅吉通訳としていた。
- ・ ニューオーリンズの農場にて作業員として働く。その後職にあり付けず大理石会社のジョージ・クラークをおもい出し・ジャクソンビルにいき大理石販売員として南部諸州、キューバやバハマ諸島まで気ままな旅行をした。（クラークの好意）さらに社命でニューヨークへ行き見学。終了

4. 【五カ年愚行の功德】

- ・ 第一いたる所で友達ができた。その後ロータリークラブが全米に2年間で15のクラブができた
- ・ 第二にシカゴ万国博覧会の日本館で通訳をしていた日本ロータリー生みの親である米山梅吉とすれ違ったかもしれない。

- ・第3にポール・ハリスが終生支えられた大理石会社の経営者であるジョージ・クラークとの出会いがある。1911年全米ロータリークラブ会長ポール・ハリス会長（シカゴクラブ）、第一副会長ジョージ・クラーク（ジャクソンビルクラブ フロリダ）とある。

5. 【ポール、シカゴに居を定む】

- ・1896年2月26日シカゴで開業する。持ち前の誠心誠意で顧客の面倒を見て1898年に安定した生活を得る。当時のシカゴは発展途上の工業都市であり、日常生活はカサカサでした。商品は生産者責任でなく、購入者責任が横行し、商業道德はすたれ、悪徳商人が横行していた。
- ・実業人は、自由競争の中でいつも戦々恐々としていた。同業者がいると、いつ自分が破滅するか不安でならなかった。悩み多い実業人が多かった。
- ・当時シカゴにはいろんな社交クラブが多かった。が、しかしほとんどがうまくいかなかった。

6. 【ポール・ハリスの沈思黙考・ロータリークラブの創立】

- ・協会に頼るが、そこはあまりにもシリアス（真面目、深刻）でありすぎた。
- ・もっと打ち解けて悩みを打ち明ける仲間を作り職業人の心をいやすことのできるものを作らねばならないと思った。1900年
- ・ある会合で同業者は仲が悪いのに、職業が違えば仲良くやっていることに気づく。本当の親睦を得るには一業種一名の会員でなければならない。

7. 【ロータリー】リーの独自性】

- ・アメリカ系奉仕クラブはたくさんあるが、ロータリークラブが最初にできた奉仕クラブです。
- ・ロータリーは他の奉仕クラブと違って、奉仕哲学を生んだのです。他のクラブには哲学がありません。
- ・クラブを栄えさせたい願望から知恵を絞り、苦しみに苦しみをぬいて哲学を開発し続けたのです。理論派と実践派との激しい思想上の争いが起きたが、1923年になるとセントルイス大会にてロータリー運動の実践的理論を一大決議したのが決議23-34である。これでケリがついた。

8. 【ロータリー親睦の哲学である】

- ・ロータリーは親睦の哲学であって、奉仕の哲学ではない。奉仕哲学は親睦哲学の論理的な結果です。これがロータリークラブの特徴です。
- ・同業者を排除し一職種一会員制のクラブを発足 1905年2月23日相互扶助を求めてクラブを創立。世のため人のためという考えは全くない。相互扶助・親睦のみ 原始ロータリー
- ・4人の創立者 ポール・ハリス（弁護士）、ハイラム・ショウリー（洋服屋）ガスターバス・ローア（鉱山技師）ハリー・ラグラス（印刷屋）

- ・例会で親睦のうちに相和し良質な会員との接触によって切佐琢磨することによって、①奉仕の心が形成され、それを社会に行動に移すことをロータリーの実践という。同時に②人格を形成する。
 - ・ロータリアンが喧嘩するようになったのは、ロータリーが世のため人のためになる考えを持ちながらも、理想が共通でなくなる。
 - ・ハリ－ラグラス歌の提唱 中小企業者の集まり故昼食を用意した例会となる。ポールとの不仲
 - ・ロータリーが理想を追求し始めるとクラブ内は荒れた。ポール・ハリスは世のため人のためになる方へ進んだ。ポール・ハリスは「世のため、人のため。自分たちにためだけに集まるのは過去のロータリーで、これからのロータリーは世のため、人のため」にとやったので皆厭きられてしまった。
 - ・ドナルド・カーター（弁理士）を勧誘したとき「閉鎖的なロータリークラブでは発展性がない、人の尊敬と信頼受けなければそんな団体は長続きしない」と入会を断る。ポールは反省し、社会奉仕の概念を持ち入れた。一業主一名というロータリーの特徴は維持した。
 - ・ポールは第3代目の会長に就任し、親睦のエネルギーを世の絶え人のために放流しなければならないと説く、クラブ内は嫌な空気が流れた。「子供に帰ろう」と呼びかけ、歌を定期的に歌おうということになった。ポールは再度会長の意欲示したが、会員はげんなりした。
- 最初の会合の時に、「俺たちは寂しかった。だから定期的に会合開き、肩と肩をたたき合って楽しくやろうと言ったのはポールではなかったか。何時から世のため、人のためとかが出てきたのだ」と会員は冷ややかであった。普通なら会長は罷免だが、創設者のポールを罷免するわけにはいかなかった。1908年にポールは今一度会長を志願した。会員はゲンナリした。そのころ1908年の時

9. 【シェルドンの入会】

- ・ミシガン大学のビジネススクールを卒業した。専門は経営学を学んでいるフレデリック・シェルドンが入会した。^{1911年}
シェルドンは1911年第二回全米ロータリー連合会のポートランド大会の席上で述べた標語 “He profits most who serves best”（奉仕に徹するものに最大の功德あり）
（最も奉仕するもの最も多く報われる） 場内万雷の拍手
- ・ミネアナポリス RC の初代会長弁護士フランク・B・コオリンズ「ロータリークラブの組織において成すべきことが一つあるそれは直ちに行動を起こすことである。自己のためにロータリーに入会したものは間違った会員である。ロータリーは自己のためではない “service, not self”（奉仕だ、私利私欲ではない）と述べる。その滅私奉公の感が強いので” Service above self”（超我の奉仕）となる 二つの標語が生まれる

10. 【ポール・ハリスの会長辞任】

- ・ポールはシェルドンに奉仕の哲学を確立するようにと拡大委員長任命した。1908 年
シェルドンの生真面目さに一般のローリアンはついていけず解任された。ポールも一緒に辞めた

11. 【事務総長チェスレー・ペリー】

- ・後任をチェスレー・ペリーが引き継ぐ。ポールは設計士 ペリーは建築士 友情が永遠であった
シェルドンは理念の開発者
- ・1910 年全米ロータリークラブ連合会発足し・1922 年 6 月 5 日に国際ロータリーに改称
- ・国際ロータリーは全世界の連合組織である。国際ロータリークラブは存在しない。
- ・最近の RI にロータリークラブが支配されるのは間違いである。RI がクラブに物申すことはな
い。会長・幹事を通じて会員に意向を伝達する
- ・ポール・ハリスが連合会会長に就任 事務総長にチェスレー・ペリー就任
- ・RI の事務総長にチェスレー・ペリーが 1912 年に就任しその後 30 年続く。名誉事務総長を断る
- ・ポール・ハリスをよく思わない人達も居たが、紆余屈折しながらもロータリーはその都度卓越し
た意見を言うこと
により、より正しい方向へと向かっていった。

12. 【ポール・ハリスの晩年】

- ・全米ロータリー第 3 回の時 1912 年には健康を害し会長辞任した。会員は彼を名誉会長に推挙
した。しかし 1912 年のエジンバラの大会に出席しておりません。
- ・1922 年はロータリーにとって画期的な年でした。
ロスアンジェルス大会で「連合会」は「国際ロータリー」に改称され、全世界共通のクラブ定款
最速が採択されました。これ以後誕生するクラブは、週一回の例会を義務付けし、RI 理事会の定
款細則を義務付けられた。Ex: イギリスのクラブ、 徽章の草案、
- ・1947 年 1 月 27 日 79 歳でこの世を去る。
- ・ポール・ハリスの大きな転換点 1908 年であった。私利私欲の追及を先にして「親睦」を考え
私利私欲の追求といっても社会に認められなければならない。「利己と利他との調和」を図らな
なければならない。そして「利己と利他との調和」させる精神世界は「奉仕」ということだ。だから
「ロータリーは親睦と奉仕の調和の中に宿る」、そして調和の中に「寛容」がなければならない
と考えるに至った。ロータリーの奉仕哲学の基盤ができた。ただ寛容は不真面目、不道德まで許
すのではない。
ポールは不真面目なことの嫌いな人でした。不真面目はロータリーの哲学に入らないのです。ロ

ロータリーは親睦に名を借りて、善と悪との橋渡しをするものではない。「悪徳商人がロータリーの奉仕と実践を通じてどれくらいアメリカの社会から追放されたか計り知れない。これこそがロータリーの親睦の成果だといわなければならない」4年にポールは言っています。

- ・1905年から1930年に至るまで、先輩ロータリアンはロータリーに魂を求め、その魂の会得の場所として例会場を選んだのです。そこには心と心、知恵と知恵の交歓の場でした。

親睦に中でよく通わせ合ったその心を持って行動に移せば、24時間にわたって奉仕に実践となるのです。